

1720 | 道徳教育の研究

2 単位（通信授業 2 単位）

高橋陽一教授、大間敏行講師

授業の概要と目標

本授業科目は、道徳に関する人間と社会の在り方を考え、学校における道徳教育の意味を探求するものである。道徳が社会の中で果たす意味を歴史と現代社会において検討し、それをもとに、学校教育において道徳教育とはいかにあるべきかを考える。「道徳」なるものが自明の前提ではなく、研究され、そして課題となるものとして深く考察する姿勢が望まれる。

課題の概要

○通信授業課題 1

「道徳とは何であったか」

歴史上の事象でも、個人の体験でも、あるいは作品の中の世界でも、「道徳」が如何に語られ、それについてどう考えるかを教科書と学習指導書を踏まえて論じること。学校教育以外のテーマでよい。

○通信授業課題 2

「学校で道徳をどう教えるか」

中学校又は高等学校において、道徳をどう教えるかを考えるレポート。かならず授業の目的と時間配分、教材について明示すること。その他学習指導書で示された条件をふまえること。

*課題については学習指導書『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

教科書『道徳科教育講義』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。具体的な通信授業課題は学習指導書に説明しているので、十分に読んでほしい。

成績評価の方法

◎科目試験

教科書全体の範囲より出題する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3～4年次

[履修条件] 教職課程に登録していること。

[備考] 3年次の履修が望ましい。

教材等

教科書：高橋陽一・伊東毅『道徳科教育講義』（武蔵野美術大学出版局 2017年）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』（日本文教出版 2008年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017年）

その他

通信授業課題については『学習指導書』の説明を十分に理解して取りくむこと。